

飛騨市制20周年記念式典

令和6年2月1日に飛騨市は記念すべき市制20周年を迎えました。
12月14日、飛騨市文化交流センターで節目を祝う式典を開催し、市の
さらなる発展を参加者700名が祈念しました。

式典の主演は未来の飛騨市を創る子どもたち！

この式典には、これからの飛騨市を担う子どもたちに大勢参加していただきました。
市内年長園児によるうたの披露や小中学生の探求発表など出演者として式典を盛り立てたほか、
司会進行を古城・飛騨神岡両高校の生徒が、一般受付を古川・神岡両中学校の生徒が担うなど
学生も運営に参加していただきました。



オープニングは迫力ある演奏を披露

古川中学校と神岡中学校、古城高校と飛騨神岡高校、飛騨市民吹奏楽団、双葉プラスバンドの皆さん計102人がこの式典のために
結成した「飛騨市合同吹奏楽団」として演奏を披露。『アルセナール』など3曲を熱演し、式典は華やかに幕を開けました。



約700名が参加



国・県関係者、県内の首長のほか、日頃から飛騨市を支えてくださっている関係者の皆さん、市民の皆さんに出席していただきました。
式辞に立った都竹市長は「市民の皆さんと、人口減少にともなう生活課題に正面からぶつかり、知恵と工夫を凝らして新たな取り組みに積極果敢にチャレンジすることで、将来にわたって市民の皆さんが住み続けたい故郷であることはもちろん、若者をはじめ他の地域の方々も呼び込むことができる全国のモデルとなるような町になると確信しています」と話しました。

20年の歩みを振り返る映像を放映

合併当時のまちの様子や、これまでのまちの歴史、まちの取り組みを映像にまとめ、20年の歩みを来場者の皆さんと振り返りました。宮川町在住の参加者は「思い出の映像を見ながら20年の間に色々なことがあったと記憶を辿りながら拝見しました。とても良い映像だったと感じました」と話しました。



市内高校生が司会を担当しました

古城高校

飛騨神岡高校



ヒダスケ！の皆さんに 式典の運営をお手伝いしていただきました



保育園児によるうた発表

市内の6園の年長園児92人によるうたの披露がありました。

園児らは舞台上に立つと『そうだったらいいのにな』『世界中のこどもたちが』の2曲を元気よく大きな声で歌い、その愛らしい園児らの姿に会場は和やかな雰囲気に包まれました。



市内3校の小中学生による探究発表

自分たちで課題を考え、解決に向けて生き生きと学んでいる様子などを報告しました。

いずれの発表も素晴らしく、若い世代の可能性を感じる内容に参加者から大きな拍手が送られました。



古川小学校



古川中学校



神岡中学校



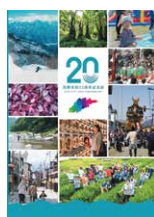
子どもたちの地域学習の取り組みの展示

ホワイエにて市内小中高生の地域学習の取り組みの展示を行いました。また、河合小学校の子どもたちは「河合っ子マルシェ」の一環でスープやチャイの販売を行い、会場は大勢の人で賑わいました。この展示は1月17日(金)まで市役所本庁舎1階、神岡振興事務所1階でご覧いただけます。

記念誌で振り返る飛騨市の歩み！ 市制20周年記念誌を作成しました

これまでの飛騨市の歩みを振り返るために、飛騨市制20周年記念誌を作成しました。ぜひご覧ください。

配布場所：飛騨市役所総合政策課窓口(本庁舎1階)、各振興事務所



市内中学生が記念誌を配布しました



飛騨市民カレッジ特別講演会 池上彰さん「ニュースから世界を見る」

数多くのテレビ番組への出演や著書などで知られるジャーナリストの池上彰さんを招いた講演会が開催されました。世界で起きている紛争、宗教や政治の問題を分かりやすく解説しながら、それらの問題が巡りめぐって日本の政治や経済にもつながってくると講演。会場からの質問にも答えながら、情報収集のコツや情報を精査することの大切さなどを説明しました。